

2021年10月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-3667

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



みだれ ばし ばく ふ
ここが「武石八景」乱橋の瀑布

山姫の さらせる布に つつめばや
あやうげもなく こゆる粗朶橋

江戸時代の後半、武石の農民は困窮し逃げ出す者も後をたたず村は荒廃しました。文政年間(1820年代)上田藩は郡奉行(村々の政治一般を司る職)相馬与右衛門通孝を村に出張させ、土地・年貢台帳を照らしながら現地を調査して村の再興を図りました。その結果武石は、沖・鳥屋・下武石・上武石・下本入・上本入・小沢根・余里の8か村に分かれて生活を営むことになりました。この8か村が明治22年に合併して武石村になりました。

村役人たちと村中を歩いた相馬は、心ひかれた里の景色を和歌にうたい、村人も共感したものが、「武石八景」として伝わったようです。しかし、しだいに人々の記憶が曖昧となり、明治20年代に書かれた小山真太郎氏の『武石沿革史』の八景は、「富沢晴嵐」「松島夕照」「横沢暮雪」「長尾秋鹿」「鳥屋炊煙」「小山秋月」「金ヶ崎夜雨」「信廣寺晚鐘」ですが、

金子新十郎氏の『古事証見聞雑書記』では、「乱橋瀑布」と「宮山巖松」が加わり十景となっています。同38年神主の清住道広氏が記録した「武石八景之詠歌」は、「小山秋月」と「宮山巖松」を除いており、これが『武石村誌 現代』に「武石八景」として記録されています。

「乱橋瀑布」は、清住氏の記録に「これは小沢根入りにて湯に至る道すじなり」とあり、岩をかみ、白い飛沫を上げて流れ下る小沢根川上流の様子と知れるので、河童橋の脇に説明板を設置しました。

住みよいたけしをつくる会の自然・生活環境部会では地域の名所旧跡を再認識する活動の一環として、武石八景として伝わっているか所に案内板の設置を進めています。

その第一弾として10月1日に「乱橋瀑布」の説明板を設置しました。

甘いトウモロコシはいかが



つくる会産業経済部会は、8月30日(月)につるつるの店頭をお借りして、トウモロコシの販売をしました。本来は武石夏祭りに焼トウモロコシで販売しようと栗の市民農園を借用して栽培したのですが、夏祭りは中止となり、また天候不順も重なって実入りが遅れこの企画となりました。

販売開始の9時には20人を越える方々が並びこの朝収穫した300余本のトウモロコシは、1人5本の限定販売でしたがアツという間に売り切れました。お味はいかがだったでしょうか。

11月7日は 御柱 斧入れ式・山出し祭

子檀嶺神社・氏子総代会では、11月7日(日)に焼山国有林にて行われる子檀嶺神社御柱斧入れ式と山出し祭について、新型コロナウイルス感染症が収まらないため、参加人員を制限して執り行うことにしました。また御柱曳きは中止とし、現地よりトラックにて直接信広寺脇の御柱安置所まで搬出されることとなります。なお、来年4月10日(日)の本祭は、通常通り御柱曳き・建御柱を行う予定で、氏子総代会では大勢の皆様が参加されることを期待しています。

また、先ごろ開かれた「御柱大祭役職者会議」において、次の方々が、御柱役割代表者に選出されました。

御柱世話人代表	小沢根 中原 房一さん
おのかた 斧方長	小沢根 古平 安男さん
きや 木遣り頭	小沢根 鈴木三千夫さん
てこかた 梃子方長	小沢根 両角美喜男さん
しゃちかた 鯨方長	小沢根 滝沢 徹也さん

神社御朱印集め スタンプラリー 子檀嶺神社など上小地域8神社

上小地域の8神社では連携して御朱印を集めてもらう「ぐるっと上小御朱印めぐり」を実施しています。小沢根の子檀嶺神社のほか豊受大神宮(長和町古町)、生島足島神社(下之郷)などで、8社すべてのスタンプを集めた人は終了証と記念品がもらえるとのことと人気があり、土日は30組以上の方が訪れるとのこととです。



9月14日は火曜日でしたが群馬県から訪れたカップルが、今日1日で8社全部回る予定と御朱印をいただいていた。

期間は10月31日まで。

さるすべり 姉妹の百日紅?

武石を代表する秋の花ともいえる信広寺のサルスベリが今年も9月下旬まで美しく咲きました。

あまり知られていませんが、聖観音立像(平安時代の作と推定される)を安置する小沢根の観音堂にもサルスベリの大木があり、今年も鮮やかな紅色の花を咲かせていました。観音堂も信広寺がお守りしていますので、同時期に植えた姉妹木なのかも知れません。



信広寺



観音堂

第5回 集ま水! 仮装大賞

武石の秋、恒例となった「武石風土つなぎ隊」主催による仮装大賞。年々グレードアップを重ねるなか、第5回を迎えた今年はコロナ禍により開催が危ぶまれたものの、新装なった武石総合センター落成記念大会として台風一過の9月19日(日)に開催されました。感染予防対策として来場者を100人に絞り、受付では体温測定や手指の消毒のほか、来場者名の記録など綿密な対策も講じられました。

8組の団体と個人約30名がエントリーし、ホール内は久しぶりに大きな拍手と笑顔に包まれました。



見事優勝した宮下和美さんの「御柱祭お練り」御柱を来年に控えたプレリユード?

「おかめ・ひよっこ」は最後まで正体を明かしませんでした。

準優勝の「すしくいねえ」による新幹線で運ばれる回転ずし。昨年3位から順位を上げました。



第3位の「ピクトグラム」寺尾雄二郎さん 武石の各名所を図記号で表現

「異世界転生・真田十勇士」 「桃から生まれる編」 上田を元気にする前歯の妖精の皆さん

郵便局長賞 「エステで大変身!!」 セイビア'sの皆さん 肥満体もこの店で お姫様になっちゃお〜



「チャワンムシ柔道マン」 佐藤 輝さん 熱のこもった演技でした。

5名の審査員もそれぞれ変身して採点。



「生脚でいろいろ」三井勝彦さん 自分の脚に型紙を添え、巧みな光線を照らすことにより艶めかしく不思議な世界を演出。



「リモート」4人の仲間の皆さん コロナ禍で生まれた産物「リモート会議」を面白おがしく。



最後に、全員で記念撮影。「次回も頑張るぞー。いえーい!!」

武石に

とくし丸が やってきた!

買い物がしにくい皆さんに 商品をお届けする軽トラ移動スーパー



「あと5分で着くって連絡あったよ!」「まだ自分で買い物は行けるけど、来てもらおうと助かるね。」と、「とくし丸」の到着を待つ年輩の女性が話す。

「とくし丸とくし丸とくし丸とくし丸とくし丸」軽快な音楽が近づいてくる。現われたのは、派手にラッピングされた軽トラ移動スーパー「とくし丸」。ここは、沖の北澤土建(株)向かいの駐車場。会社のご厚意により場所をお借りしているという。

運転してきた販売パートナーの瀧澤^{おさむ}さんと、この日(株)デリシア本部から取材対応にお越しいただいた小池智也さんのお二人が車から下りる。早速、保冷コンテナ車の3方の荷台のあおりが跳ね上げられる。中からは、ぎっしりと商品が並ぶ棚が現われる。まさに移動スーパーだ。

今や遅しと待っていた3人の年輩のお客さんが「とくし丸」を取り囲む。「今日は惣菜が売り切れちゃって!」と、瀧澤さん。見ると、棚のトレーが一つ空になっている。「牛乳はあるかい?」「こっちにあるよ。」お客さんの持つ買い物かごが商品で満たされていく。

長野県内では、軽トラック移動スーパー「とくし丸」が北信、東信、中信などで現在20台(9月20日時点)が営業しています。運転するのは、(株)デリシアと契約し商品を仕入れ販売する個人事業主の方です。そのうちの一台、武石地域を含む依田窪を営業エリアとする丸子地域在住の瀧澤さんが運転する「とくし丸」を今回取材しました。

瀧澤さんは、今年6月から営業を始め、取材当日(8月4日)でようやく2か月になろうというところ。

武石地域では、現在約70人の利用者がいて、水曜日には上本入、下本入、上武石、下武石、沖を、木曜日に小沢根、余里、上武石、下武石、鳥屋、上本入を宅配して営業を行っているとのこと。

扱う商品は、肉・魚などの生鮮食品、総菜、日用品など約400品目、1200点、お家の前で自分の目で見て選ぶことができ、お買い物の楽しみを味わうことができます。また、注文を受けて、次週の訪問時に届けるサービスも。販売価格は、スーパーデリシアの商品価格に1点10円を加えた価格です。

瀧澤さんは、営業をしながら訪問宅に新聞が溜まっていないか等、高齢者世帯の見守りにも心がけているとのこと。デリシアの小池さんからは、買い物がしにくい皆さんに対応としたいとして始めた事業であり、今後も事業の拡大を考えている等のお話をお聞きできました。

地域にあったスーパーの撤退や個人商店の閉店が進み、住みよい武石をつくる会としても買い物しやすい環境づくりを地域課題として取り組んできました。買い物は楽しみでもあり、地域のコミュニケーションの場所でもあります。「とくし丸」の登場は、課題解決に向けての大きな一歩と言えるでしょう。

なお「とくし丸」のお問い合わせや利用を希望される方は、下記へご連絡ください。

(株)デリシア tel:080-7461-1420



下武石は小さな城下町

郷土史家 児玉卓文

今年のお盆は豪雨に見舞われました。堤防の決壊や土砂崩れなど大きな被害はなかったものの、流路変更と砂礫の堆積で用水路(堰)の取水ができなくなりました。人力での回復は難しく重機による復旧を待たねばならない用水もありました。

河原から段丘の上に導水する用水路の開発は大変な土木作業で、資金と人の組織が無ければできません。ですから用水路の開発と郷の成立・発展は深く関係しています。武石郷はその名のおり上武石と下武石を親郷(本郷)として発展したと考えられます。

上武石は市ノ瀬の岩の口で取水した上武石用水沿いの集落とその生産域、下武石は市の瀬の木留場^{おおせぎば}で取水した大堰沿いの集落とその生産域ですが、共通する地名や伝承があります。

○堀の内の「裏町」と七ヶの「町」。

○「堀の内」は堀や溝で囲まれた屋敷があったところに残される地名です。明治14年に県に提出した『下武石村誌』は武石城址の項目があり、「堀と土塁あり」と書かれています。

堰の開発は人を組織する力がなければできません。両方の堰とも武石郷を支配した人物の主導により開発され、館を中心に集落が計画的に形成されました。支配した人物は堀で囲まれた屋敷や城のような館^{やかた}に住んだものと考えられます。用水を段丘の上にまで引く技術の高さや開発面積の大きさから、大堰があとに開発されたと考えられますが、町の作り方も時代の様子を反映しています。上武石・下武石の「上下」は古い武石郷と新しい武石郷という意味があるように思われます。(大堰の名も「大きな堰」の意ではなく、上武石堰より「広い範囲を灌水する」という意で、小に対して大と呼んだように思われます。)

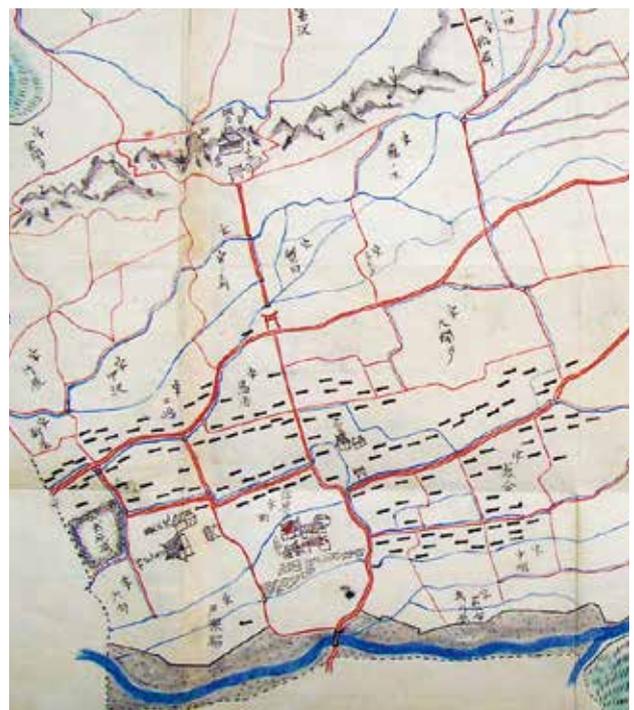
今回は下武石の集落を見てゆきます。

右の図は明治10年代に作成され県に提出された「下武石村絵図」の一部です。小学校の体育館やプール、児童館の部分が石積みで囲まれたように描かれ「武石城」と書き込みがあります。(「大

和守屋敷」との伝承もありました。江戸時代は藩の陣屋がおかれ、武石郷共有の郷倉も何棟があったようですがどのように使われていたかは不明です。明治21年12月ここに武石小学校が建てられ、昭和32年まで存続しました。)

大堰はこの「武石城」の地点でようやく段丘上に上り(城の斜め下から右にかけてのブルーの線)、生活用水と水田用水として使用できる状態になります。ここに館を構えた主は用水支配の要をおさえ、同時に館の南から東にまわすことにより堀として館の防備を固めています。こうした構築物を「館城^{やかたじろ}」といいます。

館城から右手(東側)は江戸窄^{えどすぼ}(メクトロン所在地)あたりまでわずかに高い地形が帯状に伸びています。武石の領主は、この小台地の南の縁^{ふち}と北の縁に2本の道を配し、郷の鎮守として宮山山麓に祀った大宮諏訪神社から南に真直ぐ通した小道を境に、その2本の道を小台地上にのせ、館城に向かって防禦のために鍵手に屈曲させて、小路・町・三島・鳥居・新屋などの集落を配置しました。そう、下武石は小さな城下町なのです。 続く



「下武石村絵図」の一部

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体



地域と音楽を結び隊

代表 見玉 篤人さん

(手打らめん「かじかや」二代目店主)

武石公園裏の県道沿いにあるラーメン店「かじかや」、昼時には駐車場がほぼ満杯の人気店で、新聞やテレビでも紹介されています。店の自慢は、武石の水を使って打った卵不使用の手打ち麺と、魚介と鶏がらのダブルスープで、武石の美味しい水と空気がラーメンの味を決めているそうです。

「かじかや」は、上田市街地でラーメン店を営んできた児玉茂さんが2000年9月に現在の場所に開店、昨年20周年を機に息子の篤人さんが店主を引き継ぎました。お父さんの味を守りつつ、武石の地域おこし活動にも参加、新たな企画にチャレンジをしています。



今年4月、音楽好きの知人、友人ら5人と「地域と音楽を結び隊プロジェクト」を立ち上げ、「生で子供たちにも音楽に触れさせたい。音楽で地域を元気づけたい」と、新型コロナウイルスの感染拡大で発表の機会を失った市内小中学校の金管バンドや吹奏楽部の出演を募り、8月12日の夏祭り演奏会を企画しました。また、秋から来年春にかけて高校、大学生による軽音バンドや音楽家による演奏会など計4回のイベントを企画、運営費用をCF(クラウドファンディング)により一般募集を行いました。コロナ感染拡大防止のため残念ながら夏祭り演奏会は中止となりましたが、「秋と来年春のイベントを計画している。今後も新たな資金募集やスポンサー支援を得て、お散歩ギャラリーや地域イベントと連携して年に数回の音楽イベントを開催したい」と話していました。

篤人さんの音楽との出会いは、小学生の頃に両親に浜田省吾の日本武道館ライブに連れて行ってもらった事が始まりで、その後も浜田省吾や他のアーティストのライブを見に行き、友人のアマチュアバンドやカラオケなどで音楽と関わる中で、“自分たちの手で今まで見て来たようなステージを作りたい、ライブ運営の仕事をやってみたい”と思うようになりました。

高校卒業後も家のラーメン店を手伝いながらイベント会社に登録、近くでライブがあるとスタッフとして運営の仕事に関わって来たとの事です。

こうした経験が、2年前から始めた店内で開催している音楽家の演奏会や、昨年「つなぐ家」での音楽ライブの開催にも繋がっています。

篤人さんにとって音楽は、「悲しい時、疲れた時に癒してくれて、元気になるもの。地域に音楽を広め、地域を元気付けたい」と“地域と音楽を結ぶ”想いを話してくれました。

また、「武石を昔のような活気のある街にしたい。音楽ライブでお客さん呼び込み、武石での消費や宿泊に繋げ、SNSなどで武石の魅力を発信してもらおう事により更に集客に繋げたい」と話していました。「地元の食材を使ってコラボメニュー(信州武石ラーメン?)を作りたい。夜の時間帯に、演奏したい人に場所を提供して店内で演奏会をやりたい」と篤人さんのチャレンジはこれからも続きそうです。



ラッパー「SHO」屋外ライブ(8月7日かじかや駐車場)